

会 議 録

1 会議名

令和3年度第7回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

(1)牧湯の里深山荘の今冬の営業について

(2)第2回牧区町内会長連絡会議の開催結果について

(3)4区地域協議会合同研修について

○自主的審議事項（公開）

(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和3年11月30日（火）午後6時00分から午後8時05分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、井上光廣、折笠忠一、坂井雅子、
佐藤祐子、清水薫、高澤富士雄、横尾哲郎

・施設経営管理室：小関係長

・事務局：牧区総合事務所 山岸所長、隠田次長、飯田グループ長、藤井班長、田中
主事（以下、グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【隠田次長】

・会議の開会を宣言。

・上越市域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の

出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。
- ・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・会議録の確認：清水委員に依頼。
- ・本日の報告事項である(1)牧湯の里深山荘の今冬の営業について、施設経営管理室に説明を求める。

【小関係長】

—資料No. 1に基づき説明—

【西山会長】

- ・質問・意見が無いようなので終了し、施設経営管理室様にはここで退席していただく。
- ・続いて(2)第2回牧区町内会長連絡会議の開催結果について、事務局より説明を求める。

【隠田次長】

—資料No. 2に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程事務局より説明のあった件について、質問・意見等はないか。

【飯田副会長】

- ・確認となるが、「緊急除雪作業報償制度」は市道のみが対象なのか。

【隠田次長】

- ・市道である。業者が市道を除雪できなくなった場合、緊急的に町内へ報奨金を支払い除雪してもらう制度となるので、私道は該当しない。

【井上委員】

- ・多くの資料をいただいております、読み切れていない中で質問するのも申し訳ないが、具体的に牧区で特に関係する所、注意すべき所はどのような所か。

【山岸所長】

- ・「大雪の災害対応の検証」であれば、停電関係の連絡体制が挙げられる。牧区は、業者

が揃っている中で市道除雪は良いという評価もある。後は、国県道との連携が挙げられる。

【隠田次長】

- ・確かに、国県道との連携が良くないと検証されている。例えば、以前井上委員より質問を受けた情報収集が上手くできていない件については、県にも連絡させていただいた。また、先日の町内会長連絡会議の席上でも話が出た。再度上越地域振興局地域整備部の方に申し入れをさせていただきたいと思う。

【井上委員】

- ・そういうところは大事だと思う。

【西山会長】

- ・他に意見が無いようなので終了し、(3)4区地域協議会合同研修について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—資料No. 3に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程事務局より説明のあった件について、質問・意見等はないか。まだ参加の可否について報告されていない方は、12月3日が報告期限とのことなのでお願いしたいと思う。
- ・他に意見が無いようなので報告事項について終了し、続いて自主的審議事項である(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—資料No. 4に基づき説明—

【西山会長】

- ・意見交換会に参加された委員も含め、今程の事務局の説明について意見等があればお願いしたい。

【横尾委員】

- ・それぞれの団体の悩みや今の課題を、改めて時間をかけて分析していかなければならないと思う。

【西山会長】

- ・スポーツ団体のお母さん方に引き続き牧振興会ということで、二度にわたり意見交換会を実施してきた。これから自主的審議事項を進めるにあたり、どういう形で進めていくのか、ある程度意見をまとめることができればと思う。内容について、何かお気づきの点やこうすれば良いのではないかな等あれば意見を出していただきたい。

【井上委員】

- ・今年の5月28日に牧振興会の通常総会があり話を聞いたが、様々な事業に取り組んでいて、協議会と牧振興会がお互いの意見を持ち寄り共有するのは良いことだと思った。牧っこ秋まつりや灯の回廊、学習会等、この地区の中で実施している事業の話を聞いて改めて実態のある会だと感じた。なかなか財政面や人材面で難しいこともあり、みんなで知恵を出していかなければならないと思った。役員の方も、牧区の中で一生懸命やられていることが分かる。その中に協議会で話し合う牧区の課題も盛り込んでいただけたら良いのかと思った。

【西山会長】

- ・牧振興会も新型コロナウイルスの影響を受け、様々なイベントが中止となり、思うように動けない部分もあると思う。「どこでもドア」に代わるものとして、他の振興会である程度動いているところもあるので、そのあたりを参考にするのも一つだと考える。現状の牧区内の交通体系についても、車庫の問題や人材不足の問題点をクリアできるような形をとり、現在区内を走っているバスを牧振興会が主体となれば、牧振興会の収入も増えて移動する人の便宜も図れるのではないかなというのが個人的な意見である。実際に三和区や中郷区等、取り組んでいるところもあるので、今回4区合同研修会の話を聞いて、その後必要に応じて視察するような形も一つの考えだと思う。前回同様交通網の問題に限らず、牧振興会のプロジェクトに参加された佐藤委員より何か意見はないか。

【佐藤委員】

- ・子育て支援ということで、「土・日曜日に面倒を見てもらえる場所はないか」という話から始まった。次第に「市内の子どもたちも牧区が良いところだと分かればなおさら良い」という話になり、声かけをして親子で来ていただく等を夏から冬にかけて3回行わせていただいた。今回も、灯の回廊において雪遊びをしながら滑り台で遊ぶ等か

ら始めたが、どこまで子育て支援につながるのかはまだ分からないところもある。ともあれ、「牧区に住んでいる人も、牧区外の人からも牧区の良さを分かってもらえれば嬉しい」という姿勢でいる。なかなか口で言ったことと実際にどんなことができるのか等の具体的なことでは差が生じる。夏休みであれば宿題を見る等の教育面で頼られる方もおり、冬になれば書初めを指導する先生方もいる。季節に応じて、行政や公民館活動を含めた行事もあるため、それと区別しながら1年過ごすことができた。2年目に入り、灯の回廊は次年度以降の地域活動支援事業の方向性によって違ってくることもあり、牧振興会としても自主財源で動かすのは難しく地域活動支援事業をあてにしているところもある。さらに、仕事をしている方は会議で集まること自体も大変であり、事業の日程を決めることや役員がどう集まれるか、手を挙げた人以外から牧振興会の理事役員をやってらっしゃる方も含めて行っている。その点では、色々な方の支えがあり何とか続けている。また皆さんと来年度以降どうするか検討しながらやっていきたいと思っている。

【横尾委員】

- ・前回の地域協議会で自主的審議事項に絡む項目として、送り迎えや買い物に対する支援策が出された。その中で「どこでもドア」に取り組まれたとのことについて分かる人がおらず、「買い物ツアー」も参加者が少なく実質的には止まってしまうという難しい問題である。そして、牧振興会から地域協議会が何をやっているか疑問に思われていることに驚いた。非常に反省する所である。

【西山会長】

- ・牧振興会と話をすることによって、牧振興会を「バックアップできるものがあるのではないか」という思いで意見交換会を行ったと思うが、私どもの目的は自主的審議事項をどのような方向や結論に持っていくかである。現在の牧振興会の問題に限らず意見交換会を続けるのか、あるいは今までやってきた中で問題点を絞り出して細かく突き詰めていく形になるかと思われる。そのあたりはどうか。

【横尾委員】

- ・その前に一つお聞きしたい。資料の中で「団体の設立」とあるが、「新たに任意団体を設立してお金を稼げるような」というのはどのような意味合いだったのか。

【西山会長】

- ・要するに、企業まではいかないにしても、例えば農業法人のような形で物を生産し、売りさばけるような団体を設立できるのが理想という意味合いだと思う。例えば、牧振興会で行っているメープルシロップ等を事業化して活動資金を稼ぐとなれば雇用も生まれてくる。そうすると移住者も出てくるのではないか。理事長もメープルシロップに入れ込んでいるが、一人、二人の規模で取り組んでも事業化にならない。例えば、地域協議会でメープルシロップを事業化する方向で話し合いを進めるのも一案である。

【横尾委員】

- ・もう一つお聞きしたい。イルミネーションがなくなるという話を伺った。直接携わってなくても寂しく感じる。イルミネーションに関しては、経費の面から見て最終的に負の遺産となってしまうのか。

【西山会長】

- ・牧振興会が牧商工会に委託し、牧振興会がお金を出す形となっている。

【横尾委員】

- ・数十万単位なのか。

【山岸所長】

- ・10万5千円だけ出ているが、牧商工会自体はそれだけではとても足りず持ち出しをされている。

【横尾委員】

- ・とても足りない。あれだけの機械を用いている上に電気代も侮れない。

【西山会長】

- ・そもそも、イルミネーションの木自体が弱ってきている。清里区の商工会との合併が絡み今年でイルミネーションを終了すると聞いている。代わりとなる良い木がありイルミネーションができれば良い。せっかくここまでPRを行い、徐々に周知されているのにもったいない。
- ・話を戻すが、他の団体と意見交換会を行うのか、あるいはここで取り上げられている「どこでもドア」や「買い物ツアー」、子どもたちの牧コミュニティプラザの扱い方等、今までの中から絞り出すのか、この二通りからある程度方向性を出したいと思うがいかがか。意見交換会の対象として他に老人会が挙げられる。

【清水委員】

- ・思い付きで話をするが、スポーツ団体の若いお母さん方や農業関係の未来塾で若い人たちの話を伺うと、子育て世代が喫茶店のような場所で交流することはできないだろうか。その中で、元地域おこし協力隊も自分の人生をかけてやっているわけである。他にも高尾等と話し合っ、若い方々が交流できるようなことをメインにしながらどうしたら良いかを話し合ったら良いと思う。

【西山会長】

- ・元地域おこし協力隊と高尾が頑張っている。

【清水委員】

- ・まだ他にあるかもしれない。若いお母さん方が牧区の中でお茶を飲みながら、自分の楽しみや悩みを気楽に話し合える場所が欲しい。

【横尾委員】

- ・元地域おこし協力隊のテレビでの話を聞くと、喫茶店は12月いっぱいまでだと聞いた。

【山岸所長】

- ・まだ通年では難しいとのことで11月28日が今年度の最終日である。ご自身の喫茶店を第2・4週の土日を営業日として9月上旬から始められ3ヶ月となる。来年になれば通年できる可能性もあると話されていた。

【横尾委員】

- ・高尾のお茶のみ散歩も再開しているのか。

【山岸所長】

- ・先程の話は高尾のお茶のみ散歩ではなく、500円で自由に過ごすことができる、「山のホムサ」という貸しスペースのことだと思う。

【西山会長】

- ・お茶のみ散歩に関しては辞めたのか。

【山岸所長】

- ・辞められたとのことである。

【飯田副会長】

- ・牧振興会との意見交換会に出席させていただいて、やはり牧振興会も若いお母さん方・お父さん方も、同じような夢や希望、活性化、生きがいを求める地域づくりをしてい

きたいという共通点や話題があると思う。現在、清水委員からもグループもしくは集まる機会を求めている人がいて、反対に集まる場所を提供したり、区内はもちろん市内外から人を呼び込もうとするポテトヘッドもある。フレッシュな意味合いで、このような人たちと意見交換を行えば、また異なった意見が出てくると思われるため意見交換会をするのも良いと思う。

【西山会長】

- ・忙しいとは思われるが、具体的に話に出た方々から様々な考えをお聞きし、我々が協力できることがあれば良いことだと思う。我々の経過を話しながら話をする方向で進めるか。

【横尾委員】

- ・やはり、お互いを知ることとはとても大事なことだと思う。

【西山会長】

- ・もう少し意見交換会を続けて、牧振興会に限らず元地域おこし協力隊等や外部と接触を図ろうとしている人たちへ話し合いを進めていくという方向性に決定ということで、本日はよろしいか。

【飯田副会長】

- ・自主的審議事項に関しては、令和4年3月までに結論を出すわけではないという解釈でよろしいか。

【藤井班長】

- ・自主的審議事項については、特に期限はない。

【西山会長】

- ・先程話に出たとおり、区内で動かれている方に時間を取って話し合いをすることで良いか。

【山岸所長】

- ・皆さんに具体的に何を聞くのか。

【清水委員】

- ・意気込んで店を出している人と、若い人たちを上手く結び付けられないか。単発ではなく、日常的にそのような仕組みづくりができないかを投げかけ、話し合いをしてはどうか。

【山岸所長】

- ・清水委員が言われているのは、若い人たちが交流できるような居場所づくりにおいて単発的ではなく日常的な仕組みづくりをその方々に提案するような話と、その方たちに何が必要なのか求める話は二本立てのようなイメージがする。

【清水委員】

- ・二本立てではないと思っている。店を出しながら人の交流の場を作ろうとしているので、そこへ若いお母さん方・お父さん方が気軽に行けるようにできないか。

【横尾委員】

- ・確かに、テレビでも話されていたが、元地域おこし協力隊も若い人から「コーヒーを一杯飲める場所がないか」と言われて一念発起したとのことである。

【西山会長】

- ・今心配しているのは、相手に要望するか、あるいは現在行っている中で協力できる部分として若いお母さん方が気軽に入れるような雰囲気づくりなのか。

【横尾委員】

- ・地域協議会としては、自主的審議事項を進めるにあたって、まずスポーツ団体のお母さん方に話を聞き今回は牧振興会に話を聞いた。無理やりの絞ろうとせず、そこから見出していけば良いのではないか。

【佐藤委員】

- ・とりあえず、牧区で手を挙げて自らチャレンジした人からどうして始められたのか、牧区のどこに着目したか、牧区の若い人との交流や絡みは始まっているか等の状況を聞き出す形で取り掛かり、そしてスポーツ団体に入っていない保護者に声をかけて伝える等、結論や形を出すのではなく皆さんから色々聞き出すことで良いのではないか。

【横尾委員】

- ・私もそのように考えていた。

【西山会長】

- ・逆に、向こうの方から要望が出てくると思う。

【横尾委員】

- ・そのとおりである。先日テレビであったように、若い方を中心として話し合える場所が1件あっても良いとのことであった。加えて、牧区に家を構えることについて、ど

のような思いなのか。そのようなことから掘り下げていくと、また色々なものに繋がっていくと思う。

【西山会長】

- ・現状をお聞きする形の方が強いと思われる。

【井上委員】

- ・元地域おこし協力隊の話聞いて、私たちが牧区に住むことにもう一つ何かないとみんなのことにならない気がする。聞き出すと言っても、相手は何を話せばいいのか、立場を変えて考えるとなかなか難しい気がする。牧区は自然が豊かだと言われるが、ここで生きていく場合、何かしら仕事をしたり家族と一緒に暮らしていかななくてはならないところがある。思い付きのようで悪いが、佐藤委員はずっと雪太郎大根を作られている。例えば、雪太郎大根を販売する際の工夫や今までやられたことを話していただき、それと比べて今はどうなのか比較する話の持っていき方にすると、昔と今で共通すること・異なることを聞けないかと思う。私も区を離れて働いていたため、雪太郎大根や蕎麦、深山荘等、誇りに思えるものがあることを実感した。私たちの話し合いにもタネが必要な気がする。

【西山会長】

- ・牧区は除雪の良い場所だと言われた。やはり、そういったところを見つけ出し、牧区のPRができるような形に改善したいと思う。

【横尾委員】

- ・新田のお米のセット販売のメニューや蕎麦等の販売努力、地域を何とかしようという思いが込められている。とても大事なことだと思う。

【西山会長】

- ・例えば、各々の生産組合ではなく牧振興会がまとめてPRする形ができれば良いのではないかというものが先日の意見交換会で意見として挙がった。

【清水委員】

- ・それに関しては、商工会が窓口となり、既に取り組んでいるのではないかと。

【佐藤委員】

- ・商工会は、4カ所のお米である。

【西山会長】

- ・商工会ではなく、牧振興会で行っているメープルシロップを含めたものである。牧区内で単独の担当者がいるわけではないので難しいところもあるが、いわゆる宣伝の窓口である。

【佐藤委員】

- ・やはり個人の経営体が仲間でやっている。現在は太平堂が事務局となり宿や温泉、特産品を持っているところで仲間を作っている。牧区は昔から団体を作るのが得意であり、小型ブルやお米の関係のコシヒカリ研究会がある。とにかくそういう団体を作っては自分たちが必要としている。団体を作っていることに加え、牧区の人たちは気持ちが温かく、皆のために何とかしよう、努力しようとする気風がある。それにも関わらず人口が減ることが悲しい。それを踏まえ、様々な方から話を拾っていくと何かが見えてくると思われる。いろいろな分野を聞きながら進めていけば良いと思う。

【西山会長】

- ・色々な意見が出たが、先程申し上げたとおり現在動いている3名の方より話を聞いて協力できることがあれば協力するという方向性で決めたいと思うがどうか。

【藤井班長】

- ・1件ずつ訪問する形でよろしいか。

【高澤委員】

- ・こちらから出向いた方が良いと思う。

【西山会長】

- ・では、グループに分かれて伺うこととし、グループ分けや日程に関しては事務局に一任する形で良いか。

【藤井班長】

- ・本日欠席されている委員もいるため、次回の地域協議会で3名の方を伺うこととして良いか決定し、グループごとに分かれて話し合うのはいかがか。

【西山会長】

- ・それでは、本日欠席されている委員もいるので次回方向性を決定したいと思う。他に意見等はないか。

【井上委員】

- ・新聞等で中川市長が緊急の避難訓練をしたことがかなり話題となっている。話題だけ

が伝わってくるようだが、まさに安全・安心の面で言うと、牧区から非常招集がかかり本庁に行った・行かない話は別として、牧区が災害になった時に本当に安全が行政的に担保されるかの方が私は大事だと思う。以前この場で火事が起こった時に連絡体制が芳しくなかったことに私は近いと思っている。職員が本庁に行くことも大事だが、ここで地震等の災害があった時にどのような体制で総合事務所が行政的に支えるかの方が大事である。そこまでのところを考えた避難訓練になっていく必要があると思う。新聞は騒ぐだけで、私たちの安全にどう結びつくかが気になっている。

【山岸所長】

- ・井上委員が言われたように、他課の職員との話の中でも「やり方としてどうなのか」という意見があった。今までもメールを返信する形の訓練があったが、今回、メール冒頭の文言が「全職員が集合しなくてよい」と始まっており非常に分かりにくかった。例えば、上越市が震度3の場合、防災担当と毎日総合事務所職員で組んでいる警報当番2人が事務所へ参集し、震度4で次長まで、震度5強以上は全職員参集となる。テレビ会議で木田の危機管理課と現在の状況、パトロールの状況等のやりとりを行う。木田ではなく総合事務所に参集し、対応にあたる。牧区の職員で足りないような場合には板倉区等からの応援体制を組んでいる。

【井上委員】

- ・私の新聞の読み方が悪かったのかもしれないが、庁舎に行かなかったとのことだが。

【山岸所長】

- ・庁舎というのは総合事務所のことである。内部事情であまり話すことができないが、伝達の仕方が芳しくなかったと感じている。今後、雪等で心配なところもあると思われるが、今回のことをもって不安だと思わないでいただきたい。

【井上委員】

- ・それが、安全が確保されている状況のための訓練であってほしいと思う。

【山岸所長】

- ・また頻繁に訓練をやるとのことなので、今後は誤りが無いよう、私たちも気を付けたいと思う。

【井上委員】

- ・承知した。長くなり申し訳ない。

【西山会長】

- ・他に意見が無いようなので、続いて連絡事項について事務局に説明を求める。

【藤井班長】

- ・「令和4年 新年祝賀会」の開催について
- ・「中山間地域農産物販売強化研修会」について
- ・次回、第8回牧区地域協議会は12月21日火曜日、午後6時からとなる。後日案内文を送付するので、その際に出欠の報告をいただければと思う。

【西山会長】

- ・意見を求めるが無く、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。